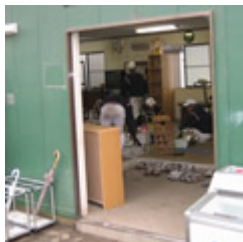


2006年12月度のトピックス

12月27日

地域清掃と大掃除で年内活動終了



この日は年内の最終活動日。部室や物置の清掃や球場内をはじめ、例年通り球場周辺の地域清掃も含めて、全部員で行われた。普段はなかなか目の行き届かない隅々までの清掃のため少々時間はかかったが、やはり清掃後は気持ちが良い。

最後に円陣が組まれ、最近練習やグラウンド内でちょっと安易な方向へ流れる者が出始めていることを、監督や部長から指摘され、この年末年始休暇で再度自分を厳しく見つめ直してることが宿題とされた。

12月24日

3年ぶり!! 全部員で高校駅伝応援



この日は全国高校駅伝。硬式野球部員38名全員はクラス代表応援要員として立候補し、それぞれが応援ポイントから大声を張り上げて声援した。折り返し点近くの烏丸紫明では1年生8名が学校から準備されたチアスティックや小旗を持ち、次々と目の前を通る選手に「頑張れえ!!」と歩道から車道へ飛び出さんばかりの勢い。

ちょうど目の前を通り過ぎた立命館宇治の選手が4位集団を形成しているところで、盛り上がりには拍車をかけた。

12月23日

OGが現役部員にみそ汁振る舞い



2年前に卒業した大学2回生が昨年末同様グラウンドに集合して、軟式ボールで試合を行った。大学野球部で活躍する者、準硬式野球部で活躍する者、軟式野球チームを作って楽しむ者など様々だが、試合は真剣そのもの。

また部室では同級生のOGが2年前に振る舞ってくれたみそ汁を作り、OBだけでなく、スタッフや現役部員にもご馳走してくれた。日が沈みかけ、冷え込みが始まる時間帯だっただけに、胃袋が温まった。あるOBが現役部員に自慢げに「親たちの時は冬には毎日、日替わりでみそ汁や麺が出たやんぞ」と話していた。

12月23日

ウォーミングアップは「鬼ごっこ」で



冬の練習はどうしても単調になりがち。基本動作の繰り返しや、体カトレーニングが中心になってくる。そこで少しでもゲーム感覚を取り入れてと実施されているのが「鬼ごっこ」。逃げる範囲は外野一面で、最初に指名された鬼ふたりが、次々と逃げる部員を捕まえる。掴まった者はその場で鬼になるため、瞬く間に鬼の数はふえ、38名の部員で約5分で1ゲームが終了する。3ゲームも終われば、もう部員の顔からはうっすらと湯気が立ち上がっている。山口主務からは「最後まで逃げ切れなかった者は罰ゲームとして...」と指示がでるが、何のことはない。全員が罰ゲームを受けることになるのだ。

12月19日

『声に出して読みたい日本語』 副部長発



10月半ばから練習前に必ず全部員が本を持ち、ひとりが大声でマウンド上で読み上げると、ホームプレートに整列した他の部員全員が続いて唱和するという光景が続いている。国語科の教員である西原副部長の発案で始まったもので、本のタイトルは「声に出して読みたい日本語」である。教科書に出てくるような『道程』（高村光太郎）『竹』（萩原朔太郎）『初恋』（島崎藤村）から『竹取物語』『源氏物語』『方丈記』などなど。マウンドに上がるのは全部員当番制で、単に声を出すというだけでなく、その効果は様々ありそうだ。

12月16日

シンポジウムに全38名が参加!!



この日は京都会館第一ホールで行われた現役プロ野球選手とのシンポジウム「夢の向こうに」に1~2年生全部員38名が参加した。観客席中央部に着席した部員は、ちょうど客席後方から入場するプロ野球選手6名の通り道にあたり、通路側の部員は次々と選手と握手する幸運に恵まれた者もいた。

シンポジウムは「バッテリー編」「野手編」などに分かれ、ステージに上がって直接指導を受ける機会には恵まなかったが、プロの選手の熱い語りかけに熱心に耳を傾けた。

12月13日

やはり連日の雨にも強い味方です!!



12月に入って雨の日が多くなった。グラウンドの水はけが良いので、気温の低いこの時期でも雨が止んで2時間後には何とか使えそうな状況になってくる。しかし今日は夕刻になっても完全には止まず、グラウンドでの練習は諦めざるを得なかった。

それでも絶大な威力を発揮するのが「室内練習場」だ。センバツ出場記念に2年前に完成したものだが、40名弱の人数なら少々の窮屈さを我慢すれば十分に練習できる。1時間半ほどの密度の濃い動きに、全員の頭からは湯気が立ち上がっていた。

12月10日

重量バットで快音が響くか!?



12月に入っても暖かい日にはマシン相手に打撃練習が続けられているが、選手が使用している金属バットは普通の代物ではない。重さは最も重いもので1200グラム。軽いものでも1100グラムはある。マシンはストレートと左右の変化球の3台が並ぶが、ストレートマシンは125Kmは軽く出ている。使い始めてから約1ヶ月経ち、中には通常バットと変わらないぐらいの鮮やかな当たりを連発する部員が出てきた。

「このまま続けて行けば、3月のシーズンインの 때가楽しみ」(貝塚監督)も10本用意した重量バットの効果に期待を寄せる。

12月3日

後期中間テスト終了!! 一気に冬モード



後期中間テストが終了し、1~2年生は校内球技大会などを経て、この週末から本格的な練習が再開された。テスト前の日中は20度を超す時もあったが、この半月で一気に真冬のモードに。特にこの日は寒波に見舞われ、午後の冬空からしぐれる場面も。

この冬はランニングメニューに加え、ボールを握っての練習もなるべく継続したい意向だが、突然の寒さはいつも以上に身体に厳しく感じられる。それでも部員はこの間全部員に平等に打撃・守備練習の機会が与えられており、少しでも有効に生かそうと真剣な眼差しであった。

2006年11月度のトピックス

11月3日

立命館宇治中学生が体験参加



附属中学の野球部員3名が、この日初めて高校の練習に体験参加。スタッフから熱い視線を浴びた。現在1年生に3名の付属出身部員がおり、それに続き頑張りたいと意思表示している。現中学3年生は宇治市春季大会で準優勝しており、夏は優勝チームに初戦敗退したが、徐々に力を上げてきている。

日本高野連は同一法人・同一校長の場合、中学3年生の練習参加を保護者と校長の承認の下で認めているが、「まずは内部推薦に向けた後期中間テストまでは高校の練習参加は控えること」というお達しが部長と監督から出された。

11月3日

連勝で洛南交流試合を終える



晩秋の恒例・洛南交流試合の順位決定戦が行われ、最終日のこの日は連勝で終えた。順位付けや表彰はないものの、実質1～3位を決定するこの日のグループでは第1試合、7回まで2-2と競り合う展開となったが、8回に3点を奪って突き放した。第3試合は中盤以降に打線が爆発し、8回コールドで7-0で快勝した。

この洛南交流試合は全5試合を戦い、5勝（4コールドゲーム）で、投手は秋季大会のエース山田と来春以降の飛躍が期待される上田悠（2年）の2人で乗り切り、38回で2失点であった。

硬式野球部 TOP PAGE^

平成18年度

秋季京都府高等学校野球大会 速報

2次戦

10月1日(日) 準々決勝 対北嵯峨 (西京極球場)

あと1球...目前の勝利を逸す

●立命館宇治 000 020 102 1 =6

○北 嵯 峨 000 001 031 2x=7X (延長10回)

【立】山田、松本-小西

【北】國枝-西堀

▼3塁打 未永、小西(立)

▼2塁打 白石、西堀、与那嶺(北)



1点リードで迎えた10回裏、2死2.3塁カウント2-3と追い込みながら、松本のストレートを左越えに2塁打され、逆転サヨナラ負けを喫した。

立命館宇治は5回1死2.3塁のチャンスに1番・松本が中前打し、2点を先制。1点差に詰め寄せられた7回には2死3塁から代打め未永が中越3塁打を放ち、2点差とした。

しかし山田は8回裏に先頭打者を死球で出塁させると、送りバントの後、3~4番に連続タイムリーを浴びて同点とされ、なおもランナーを2塁に残して、松本がリリーフした。しかし2死後から右前へタイムリーで逆転され、この試合初めて相手にリードを許した。

後のない9回表の立命館宇治の攻撃は先頭の8番・小西が四球で出塁すると、次打者の送りバントが相手守備の乱れを誘い、無死1.2塁。送りバントの後、2番・未永が高いバウンドの内野ゴロを放ち同点。続く3番・中野の時に相手捕手が捕逸し、再逆転した。

9回裏に再び追いつかれると、1死2塁から6番・市川が左前へタイムリーを放ち、この試合、三度目のリードで10回を迎えた。

北嵯峨の驚異の粘りに屈したが、今大会を通じて全般に前半の攻撃の淡泊さが目立ち、得点を許した8~10回の生還ランナーはいずれも四死球によるものであった。

※写真は5回に先制タイムリーを放った松本陸(2年)

9月24日(日) 1回戦 対立命館 (福知山球場)

岡島、殊勲の勝ち越し3塁打

●立命館 020 000 000=2

○立命館宇治 000 103 00X=4X

【立】大西、樋口-中村、重田

【宇】山田-小西

▼3塁打 岡島（宇）

▼2塁打 土屋、樋口（立）寺川、中野（宇）



立命館宇治は2回、立命館の先頭打者・樋口に右中間を破られる2塁打で無死2塁のピンチを招くと、続く4打者に連続してバント（2スクイズを含む）で2点を先制され、今大会初めて追う展開となった。

打者1巡を1安打に封じられていた打線は4回に無死1塁から3番・中野が左中間を破り、1点を返すと、6回には中野、4番・松島の連打で1死2.3塁のチャンスには5番・金子がセーフティスクイズ（野選）でまず同点。2死後には6番・岡島が値千金の決勝中越3塁打で2点を勝ち越した。

結局山田は2回以外はほぼ完璧に封じ込め、被安打3、2四死球の内容で、1次戦で平安を2度破り、勢いに乗る立命館打線を押さえ込んだ。

立命館宇治はこれで05年春以来のベスト8となり、10月1日、西京極球場で北嵯峨と対戦することが決定した。

2次戦メンバー

番号	守備	名前	学年	出身中学	出身チーム	投	打
1	投	山田 遼摩	2	高槻六（大阪）	ボーイズ・大阪東淀川	左	左
2	捕	小西 謙斗	2	蒲生（大阪）	ボーイズ・大阪東淀川	右	両
3	一	寺川 幸佑	1	香住一（兵庫）	ヤング・但馬BBC	右	左
4	二	金子 侑司	1	西院	ボーイズ・京都ライオンズ	右	左
5	三	中野 翔太	1	安祥寺	ボーイズ・京都ファイターズ	右	左
6	遊	松本 陸	2	旭丘	ボーイズ・京都ファイターズ	右	右
7	左	市川 怜央	1	四条畷（大阪）	ボーイズ・大東畷	右	右
8	中	松島 駿介	2	鎌田（三重）	ボーイズ・伊勢ジャガーズ	左	左
9	右	岡島 悠裕	1	吹田二（大阪）	ボーイズ・箕面	左	左
10	投	上田 悠介	2	三郷（奈良）	ヤング・西和ブレインズ	右	右
11	投	三好 優太	2	東海大仰星（大阪）	中学野球部	右	右
12	捕	大崎 将利	1	高針台（愛知）	シニア・名古屋北	右	右
13	外	末永 大将	2	東海大仰星（大阪）	シニア・京都東	右	右
14	外	山崎 遙海	2	淀川（大阪）	ボーイズ・大淀	右	右

15	内	南山 晃利	1	稲美北 (兵庫)	ヤング・全播磨硬式野球 団	右	左
16	外	井上 彬	2	洛 南	シニア・京都北	右	右
17	外	山本 昌央	2	今 市 (大阪)	中学野球部	右	左
18	投	奈数 光	2	湖 東 (滋賀)	ボーイズ・滋賀野洲	右	右

1次戦

9月16日 (土) ブロック決勝戦 対南 丹 (南丹高校
G)

遅い!! 終盤にようやく集中 打

●南 丹 000 010 000=1

○立命館宇治 010 100 22X=6X

【南】谷村、高井、奥田巧-石田

【立】山田-大崎、小西

▼本塁打 松島2 (立) ▼3塁打 中野翔 (立)

▼2塁打 寺川 (立)



立命館宇治は2回、相手失策で得た1死2塁の先制機に6番・市川が中前へ弾き返し、1点を先制した。4回には4番・松島の本塁打で2点目を入れ、中盤へかけてゲームを優位に進めるかに思えた。

今大会初先発の山田は5回2死から不用意に四球を出し、続く打者の右前打を外野手が後逸する間に1点を返され、一転して重苦しい雰囲気にも包まれた。

7回にようやく先頭の7番・寺川の右越え2塁打などで得た2死2.3塁のチャンスに、2番・中野将が鮮やかに右中間を破り、2点を追加した。さらに9回には松島がこの日2本目となる本塁打と、8番・小西のタイムリーで突き放した。終盤に幾分「らしさ」は発揮できたが、前半から中盤にかけては淡泊な攻撃が目立った。

また今大会初先発の山田も、最近では最悪の出来で、13三振を奪うもストレートに切れがなく、4四球ながら3ボールまでいく場面が多々あった (被安打7)

これで秋季大会は10年連続で2次戦への進出が決定 (1位通過は8年連続)。3試合25イニングで1失点 (投手自責点0) で失策は2であったが、攻撃面で「次の塁を狙うどん欲さ」「送りバントの精度」「走者を進める打撃」など2次戦へ向けての課題は多く残った。

※写真は2回に先制打を放った市川怜央 (1年)

8月27日 (日) 2回戦 対京都すばる (立命館宇治)

スミ1守り、薄氷の逃げ切り

○立命館宇治 100 000 000=1

●京都すばる 000 000 000=0

【立】松島、松本-小西【京】中村-西村

▼3塁打 木俣、西村(京) ▼2塁打 中村、西村

(京)



立命館宇治は初回先頭の松本が中前打で出塁すると、犠打と中飛で三進した2死後、4番・松島が追い込まれながらも中前へ鮮やかにはじき返し先制した。しかし2回以降立ち直った京都すばるのエース中村を攻略しきれず、結局この1点が唯一の得点となった。4回1死1.2塁、8回2死1.2塁のチャンスはあった

が、それ以外はほぼ完璧に封じられた。

ディフェンスでは昨日に続いて連投となった松島が8回までに4安打(3長打)を浴びながらも連打を許さず、4四死球を与えるも6奪三振で0封し、9回の松本にリリーフ。無死2塁のピンチを迎えたが、自身の好フィールディングでピンチを脱した。

1~2回戦を松島~松本の野手リレーで16イニング連続無失点と乗り切れたのは大きな収穫だったが、逆に攻撃面では走塁やバントの精度など課題も浮き彫りになった。

※写真は昨日に続いて0封した松島駿介(2年)

8月26日(土) 1回戦 対菟道 (立命館宇治)

不完全年燃焼の7回コールド

●菟道 000 000 0=0

○立命館宇治 012 202 X=7X (7回コールドゲーム)

【菟】坂口、藤原-鬼塚【立】松島、松本-小西、大崎

▼3塁打 金子、松島(立)



立命館宇治は2回1死2塁から7番・寺川の右前打で先制すると、続く3回には4安打で2点、4回にも2安打で2点を加点し、前半から試合を優位に進めた。6回には1死2塁から4番・松島の鮮やかな左中間3塁打で6点目を入れ、続くバスボールで自身も生還し、7点目を入れた。

投手陣は公式戦初先発の松島が切れの良いストレートと縦の変化で5回を被安打2、1四球で押さえ、リリーフした松本は2回を被安打0で完封リレーした。

さい先良いスタートを切ったかに思える結果であるが、2回4安打で1点、3回4安打1四球で2点など得点効率は決して良くなく、13安打を放ちながら相手の拙守に助けられた感がある。

※写真は公式戦初先発の松島駿介(2年)

1次戦メンバー

番号	守備	名 前	学 年	出身中学	投	打
1	投	山田 遼摩	2	高槻六 (大阪)	左	左
2	捕	小西 謙斗	2	蒲 生 (大阪)	右	両
3	一	末永 大将	2	東海大仰星 (大阪)	右	右
4	二	松本 陸	2	旭 丘	右	右
5	三	寺川 幸佑	1	香住一 (兵庫)	右	左
6	遊	中野 翔太	1	安祥寺	右	左
7	左	市川 怜央	1	四条曙 (大阪)	右	右
8	中	松島 駿介	2	鎌 田 (三重)	左	左
9	右	岡島 悠裕	1	吹田二 (大阪)	左	左
10	投	三好 優太	2	東海大仰星 (大阪)	右	右
11	外	山崎 遙海	2	淀 川 (大阪)	右	右
12	捕	大崎 将利	1	高針台 (愛知)	右	右
13	内	金子 侑司	1	西 院	右	左
14	内	吉田 啓悟	2	木 幡	右	左
15	内	南山 晃利	1	稲美北 (兵庫)	右	左
16	捕	森内 幸司	1	報徳学園 (兵庫)	右	右
17	外	井上 彬	2	洛 南	右	右
18	外	山本 昌央	2	今 市 (大阪)	右	左

※主将は未定。試合毎に任命する。

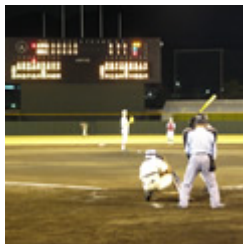
硬式野球部 TOP PAGE^

2006年10月度のトピックス

平成18年度 秋季京都府高等学校野球大会 特集

10月26日

絶好の機会!! ナイトゲームを体験する



本日は滋賀県大津市の皇子山球場で練習試合。正規の6限授業を受けてからの移動になるから、試合開始は6時。当然ナイターとなる。地元の瀬田工業が球場を借り、今回はご招待いただいた。夏の選手権京都大会では最終試合が遅くなれば照明の下での試合となり、絶好の機会を得られた。

学校行事のため参加できない者を除き、全員で大型バスで移動し、なるべく多くの者がベンチ入りし、投手は全員ブルペンで投げる機会が設けられた。3年前の秋季大会準決勝の対大阪桐蔭はこの球場で、終盤ナイターとなった。何となくその時のことがよみがえった。

10月11日

投手はスナップスローが苦手!?



未明から降り始めた雨は午前中には止むとの予報であったが、午後からもしっかりと降った。止んだのは練習が始まる1時間ほど前で、それでも水はけ良く、大会中なら無理してでも練習したが、この日はメニューを切り替えた。通常のランニングメニュー終了後、投手はダイヤモンドの半分の大きさでボール回し。しかも薄暗いナイターの中でのプレーで、闇雲に全力投球することは危険。そこで大切になってくるのが、軽快なフットワークとスナップスロー。特にスナップスローは簡単なようでセンスを要する。そういえば歴代投手でも「この子は投球だけでなく、守備も安心」というのはなかなかいなかった。

10月4日

言い訳なし!! 悔しさ胸に再スタート



何度思い起こしても悔しさしかこみ上げてこない準々決勝の試合。しかしいくら悔やんでも「やり直し」があるわけではない。チーム内で個々のプレーや場面を振り返ってミスを指摘し合っても、それは次へのステップであるが、部外者への言い訳は最もみっともない。「負けは負け」と言い聞かせ、謙虚に努力しなければ、「夏」も二の舞になる。

グラウンドでは一日の休養日を挟んで、早速夏への練習が再開された。洛南交流試合や練習試合が数試合残ってお

り、メンバーはいったん白紙。新たな競争が始まる。この日は貝塚監督からタッチプレーやカットプレーの基本姿勢が丁寧に説明された。

[硬式野球部 TOP PAGE](#)^

2006年9月度のトピックス

9月20日

堂々!! 2次戦抽選は主務が参加



新チーム以降、主将が固定されておらず1次戦では試合毎に主将を入れ替えたこともあり、本で行われた2次戦の抽選会にはこの間チームを側面から引っ張ってきた山口雄三主務が参加した。

抽選前には連盟役員から「夏の抽選ではステージの上から観客席に向かって大きな声で番号と校名を言ってもらいます。その予行演習のつもりで頑張りなさい」と説明があり、思わず下を向いてニヤッと笑った山口主務だが、予備抽選で「1番」を引いており、トップバッターで本抽選に挑み、堂々と番号と校名を読み上げた。

9月10日

ブロック決勝は降雨ノーゲーム



1次戦ブロック決勝戦は雨天が予想されたため、予定時間より早く試合開始されたが、1回裏2死1.3塁と攻め立てたところで雷雨に見舞われ、グラウンドはたちまち水浸しになり、会場校の南丹高校の判断で、球審からノーゲームが宣告された。

公式戦のアウェイは三室戸グラウンド完成以来、「対平安」以外では初で、早朝より全員大型バスで乗り込んだだけに、順延は残念。天候のことだけに気持ちの切り替えが大切だが、引き返した三室戸グラウンドでは午後から十分に試合ができる状態であっただけに、「今日決めたかった」というのが本音である。

[硬式野球部 TOP PAGEへ](#)

7月25日（火）<大会第8日> 3回戦 対京都すばる（西京極球場第3試合）

若さゆえの弱点を露呈!!

●立命館宇治 100 000 202=5

○京都すばる 000 110 24X=8X

【立】山田-大崎【京】中村-池田

▼2塁打 松本、末永、宮本（立）河原林、田中（京）

【試合経過】

初回先頭の中野翔が中前打で出塁すると、2死後に4番・松島が鮮やかに中前へタイムリーを放ち、先制した。その後は3回、5回、6回と得点圏に走者を進めながら追加点が奪えず、逆に4～5回に1点ずつを返され、1点を追う展開で終盤を迎えた。

1点を追う7回の攻撃は2番・伊崎の右前打と続く松本の内野安打の無死1.2塁を犠打で送り、5番・末永が左前へ同点タイムリー。7番・山崎が犠牲フライを上げて逆点の走者を迎え入れた。

しかし1～2回戦とは異なり、制球に苦しむ山田は7回1死から2連続四球の後タイムリーを打たれ同点にされ、なおも1.3塁から重盗を決められ、再逆転を許した。8回には内野安打を皮切りに、2本の長打を集められ突き放された。

9回には2点を返す意地を見せたが、本来自分たちより力が上の相手に立ち向かう姿勢が必要であったにもかかわらず、初回の先制で「受け」に回り、以降の展開が淡泊になってしまった。1～2年生中心のメンバーは若さが勢いとなると強いが、まだまだ受けになるほどの実力はなく、6日間で3試合目となるこの日は体力のなさも露呈した。

大会を通じて、5月以降急成長した山田を中心に3試合で「1失策」と守備からリズムを作る野球は幾分具現化できたが、スタンドで応援に徹してくれた上級生の思いに応えるためにも、さらに逞しさを身につける必要がある。



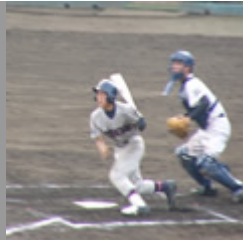
初回先頭の中野翔が中前打で出塁



4番・松島がタイムリーで1点先制



今日は1～2回戦と比べ制球・球速とも今ひとつだった山田



7回には先頭の伊崎が 1死2.3塁のチャンスに 7番・山崎の中飛で逆
 転の口火となる右前打 末永の左前打で同点に 転の走者を迎え入れた



その裏から京都はずる 円陣で何度も励ましあ 9回に反撃を期待する
 は脚と小技を絡めて反撃 ったが.... 前に8回に決定的な4点を
 奪われた

7月23日（日）<大会第6日> 2回戦 対桃山 （太陽が丘
 球場第2試合）

9回、桃山の執念の反撃断つ!!

○立命館宇治 100 010 000=2

●桃 山 000 000 000=0

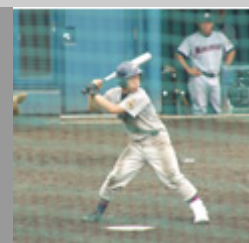
【立】山田-大崎【桃】佐々木-松下

▼2塁打 中野翔、松本（立）

【試合経過】

初回2死から3番・松本が中前打で出塁すると、続く4番・松島の右前打で1.3塁と絶好の先制機を迎えた。5番・末永の3塁線へのゴロがベースに当たる幸運な安打となり、好投手・佐々木から1点をもぎ取った。5回には先頭の中野翔が右翼線2塁打で出塁の後、3番・松本が右中間へ2塁打を放ち、2点目を追加した。

先発・山田は伸びのあるストレートと初戦では封印していた変化球を織り交ぜ、8回まで被安打2、2四球の全く危なげない投球を披露。最終回は1死から桃山の執念の反撃に遭い、3安打で満塁とされ、続く打者もカウント0-3となったが、右飛と三振で後続を断った。バックは初戦に続いて無失策で、2併殺で盛りたてた。



2回戦からチアに加え
て吹奏楽も応援に



5回には先頭の中野翔
が右翼線2塁打で出塁



9回1死から3連打で桃
山の執念の反撃に

初回2死1塁から4番・
松島が右前打を放つ

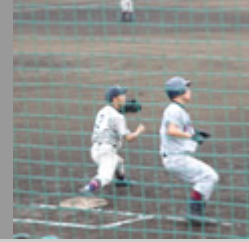


3番・松本が右中間へ
タイムリーを放ち2点目



2死から最後の打者を
空振り三振にとり、ゲー
ムセット

5番・末永のあたりは3
塁ベースに当たる幸運な
安打で先制



パックはこの日も無失
策で山田を盛りたてた



大勢の応援の前で校歌
が歌えました

7月21日（金）<大会第4日> 1回戦 対南八幡（太陽が
丘球場第1試合）

ディフェンス満点、攻撃30点

○立命館宇治 100 220 11=7

●南 八 幡 000 000 00=0

【立】山田-大崎【南】吉村-山村

▼3塁打 伊崎（立）▼2塁打 市川、大
崎、松本（立）

【試合経過】

初回1死から2番・伊崎の右中間3塁打の後、続く松本のタイムリーで先制した立命館宇治は、4回には2死1塁から8番・大崎の左翼線2塁打と失策で2点を追加し、続く5回には2死2.3塁から6番・市川の左中間2塁打で5-0と突き放し、試合を優位に進めた。

先発のエース山田は立ち上がりから変化球を使わずに、ストレートに緩急をつける投球に終始し、8回で被安打3、9奪三振、1四球とほぼ完璧な投球で、3塁を踏ませなかった。

結局攻撃陣は10安打で7点を奪ってコールド勝ちしたが、チャンスに凡フライという場面が散見され、次の試合への課題となった。



初回1死から2番・伊崎
が右中間3塁打



続く3番・松本がタイ
ムリーでまず1点先制



今日はチアリーダーに
加え、ラグビー部が応援
に



エース山田は立ち上が
りから快調な投球を披露



4回には8番・大崎が
左翼線にタイムリー2塁
打



5回には市川のタイム
リーツーベースで5-0と
した



8回2死1塁から松本の
タイムリーで中野翔が一
気に生還



何となく不完全燃焼だ
が、8回コールドゲーム



昨年は聞けなかった校
歌が2年ぶりに聞けまし
た

大会登録メンバー

番号	守備	名前	学年	出身中学	投	打
1	投	山田 遼摩	2	高槻四 (大阪)	左	左
2	捕	小西 謙斗	2	蒲 生 (大阪)	右	両
3	一	末永 大将	2	東海大仰星 (大阪)	右	右
4	二	松本 陸	2	旭 丘	右	右
5	三	吉田 啓悟	2	木 幡	右	左
6	遊	中野 翔太	1	安祥寺	右	左
7	左	山崎 遙海	2	淀 川 (大阪)	右	右
8	中	松島 駿介	2	鎌 田 (三重)	左	左
9	右	伊崎 亮介	3	三 郷 (奈良)	右	左
10	投	三好 優太	2	東海大仰星 (大阪)	右	右

11	投	中野 修	1	有野北 (兵庫)	左	左
12	捕	大崎 将利	1	高針台 (愛知)	右	右
13	内	鄭 晋吾	1	寝屋川六 (大阪)	右	左
14	内	寺川 幸佑	1	香住一 (兵庫)	右	左
15	外	市川 怜央	1	四条畷 (大阪)	右	右
16	外	宮本 剛司	3	青山台 (大阪)	右	左
17	外	岡島 悠裕	1	吹田二 (大阪)	左	左
18	内	南山 晃利	1	稲美北 (兵庫)	右	右

硬式野球部 TOP PAGE^

2006年8月度のトピックス

第88回全国高等学校野球選手権 京都大会 特集 06.7.25更新終了

8月24日

「ディフェンスの大切さ」を痛感し、秋季大会へ



盆明けのアウェイシリーズ中盤には金光大阪（大阪）八幡商（滋賀）福井（福井）と新チームで初めて連敗し、各選手の疲労困憊状態から暗雲が立ちこめたが、長野商（長野）に引き分けた後は鳴門工（徳島）光泉（滋賀）北大津（滋賀）と連勝し、秋季大会へ向けて上昇気流に乗りかけた。24日は秋季大会までの最終試合で先の甲子園大会のレギュラー6名を残し、今年度全国制覇を目指す大阪桐蔭（大阪）の胸を借りた。中盤までは4-2と何とか食らいつき、後半への反撃を期待する展開に持ち込めたが、1イニングにディフェンスのミスが複数重なったところをつけられ、ビッグイニングを与えてしまった。やはり大切なのは「ディフェンス」と痛感させられた。

8月19日

真夏の4日連続アウェイ8試合を経験!!



今年の京都府代表・福知山成美が京都大会を7日間で6試合（2連戦+1休養+4連戦）を勝ち抜いたように、夏の連戦は避けて通れず、またそのための練習は今しかできない。17日～20日は全てホームグラウンドを離れて、アウェイでの8試合となった。主戦格の投手は4日連続の試合を実感し、野手の中心選手は8試合でほぼフルイニングを戦う。

3日目となった今日は福井での変則ダブルであったが、選手はまさに疲労困憊状態。それまでの快調に見えた戦績にも黒星が並び始めた。しかし大切なのは練習試合の結果ではなく、この経験を生かして公式戦で白星を並べることである。

8月8～10日

4年目の諏訪遠征を実施!! 5勝1敗1分で帰着



今年で4年目を迎えた長野県諏訪市の遠征が1～2年38名全部員が参加して行われた。

かつてはBKCでの学習合宿や年に何回かの宿泊遠征で寝食を共にする場が設けられていたが、現在は定期的に行われている合宿では唯一のものとなっている。それだけに年々団体行動の迅速さや集団生活でのマナーといった「伝統」は色あせがちになりつつあった。4年目のお世話になる弁天荘に入る前には貝塚監督から集合がかかり「この遠征合宿は野球だけを学ぶのではない」ということが確認された。

新主将が決まっておらず、副務もない状況での山口主務にかかる負担は大変なものだったが、団体生活のルールやマナーは徹底されていた。

また今年度の大きな特徴として、過去最多の38名が参加したため、「食事をして試合を見学するだけ」という部員をなくし、なるべく全部員にチャンスが回るようにA戦4試合（貝塚監督・吉田トレーナー引率）に加え、B戦3試合（石川部長・吉川コーチ）が実施された。

9日には台風到来が確実であったが、未明にそれ、予定していた試合は全て行われた。結果はA戦4試合3勝1敗、B戦3試合2勝1分であった。

【写真上段・左】 弁天荘入り口で山口主務を先頭に全員集合して挨拶。

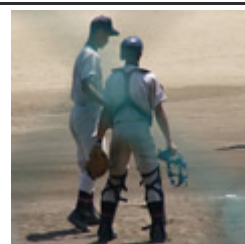
【写真上段・中】 夕食風景。ここでのボリュームはいつも驚かされる。気になるのは年々部員の「食べる勢い・量」が衰え、偏食も目立つことである。

【写真上段・右】 3年ぶりに初日の夜には部長の引率で、全部員で諏訪湖畔へ花火見学へ。

【写真下段・左】 こちらは初。2日目の試合後に近くの総合レジャーランド『すわっこランド』へ。ほとんどの部員はプールと大浴場へ。

【写真下段・中】 B戦での結果は出来過ぎ。しかしチームの結果ではなく、個々人がいかにAチームの中で働けるかという視点からスタッフは見ている。

【写真下段・右】 夏もバッテリーだった山田と大崎。諏訪から京都へ帰着する大型バスの中でもマイクを使ってミーティングが行われ、ミスを指摘し合っていた。



8月7日

スタート10日目!! 新チーム初試合



選手権京都大会のレギュラーから外野手の伊崎主将が抜けただけで、早々にも試合が出来そうな布陣のように見られるが、「まずは夏に露呈した体力不足や実力不足を徹底的に鍛える」ために、9日間は終日練習が行われた。他チームが7月末から新チームの練習試合や遠征情報が入る中、7日にようやく宮崎県から都城商業を迎えてダブルヘッダー行われた。

午後からは最高気温はおそらく38度を突破していたが、苦しい練習に比べれば楽なもの。連勝して好スタートを切った。

8月5日

「日本ノ高校野球、見タイデス」と台湾から



この夏の最高気温を記録し、光化学スモッグ注意報も発令された午後に、ひとりの青年がグラウンドを訪れ、練習見学をしたいと申し入れがあった。もともと練習見学は自由だが、言葉を交わせばすぐに日本人でないことがわかった。現在19歳の譚皓文（タンコウブン）君は台湾の夏休みを理由して、日本語の勉強で短期留学中とのこと。事情を聞けば、1年前に日本に来たときにの宇治市観光で、たまたま立命館宇治の硬式野球部員とバスで乗り合わせ、そのままグラウンドへ付いてきて練習を短時間見学したとか。今度はじっくり時間をとりたいと今回は日本語レッスンのない土曜日を選んできた。そして練習メニューをノートにとり、デジカメで撮影し、ブルペンでは投球に合わせてタイミングも計っていた。もしかしたら野球選手なのかも。帰り際も丁寧にスタッフに挨拶する礼儀正しい好青年であった。

8月2日

焦らずに、じっくりと!! 新チーム練習



選手権京都大会3回戦で敗れた翌日には早速1～2年生の集合がかり、部室や球場周辺・地域清掃を行った。2日間の休養日を経て、実質的には先月29日よりスタートした新チームは、早くも練習試合や遠征といった他チーム情報が入ってくる中、黙々と練習に励んでいる。練習は午前9時から1時間の昼食休憩を挟んで午後6時まで。夏のメンバーのほとんどが残り、今すぐにもでも試合はできそうだが、まずは夏に露呈した体力不足を補うために、筋力トレーニングやランニングメニューも含めた内容の濃いものとなっている。

新チームの初の練習試合は7日からで、8月26日から始まる秋季大会までも例年より少なめの試合数で、練習で徹底的に鍛える。

2006年7月度のトピックス

7月20日

4度目の早朝集合も順延決定で即登校へ



16日の1回戦が順延となり、「17日西京極第4試合」「18日西京極第1試合」「19日以降太陽が丘第1試合」と全て翌日送りで試合時間も変わるため、部員は早朝集合～中止順延決定～即登校というパターンが続いている。勿論立命館宇治だけでなく、各会場とも第1試合に登場するチームは条件は同じなので、有利不利はないが、5日連続の順延はここ30年ではない。

この日は夏休み前の最後の登校日。学年によって登校時間帯が異なるが、上級生は大切なTOEFL受験もある。第1試合に合わせての練習は望めず、放課後にメンバーが揃ったところで室内で汗を流すのみである。

7月16日

好スタートにもわか雨でノーゲーム



1回戦は16日、太陽が丘球場第3試合で行われ、立ち上がり3点を先取した後の2回の守備で視界が数メートルになる豪雨に見舞われ、30分後にノーゲームが宣告された。良いリズムでのスタートであっただけに惜しまれるが、切り替えが肝心。試合は明日17日、西京極球場第4試合と決定された。

ベンチの中に水が入り込み、大切にしてきた試合用道具やボールは水浸しに。とりあえず身体が濡れているため、部員は帰宅させ、明日は朝から道具の手入れをし、軽く動いてから西京極球場へ移動する。

7月14日

やはり気になり、自然と探して...



選手権京都大会の準備とリハーサルが行われた。校名プレートや校旗などが倉庫から出され、全て揃っているか点検後、所定の位置にセットされる。やはり大丈夫とはわかっていても、やはり自然と視線は「立命館宇治」の文字を探し、安心する。

午後からは洛西高校の女子生徒が入場行進先導の練習をしたが、ここでもやはり「立命館宇治」のプラカードにレンズが向いてしまった。明日の行進、宜しくお祈りします!!

7月8日

頑張れ!! Pair Rits主催の激励会実施



選手権京都大会を前にした恒例のPairRits主催の「激励会」がグラウンドで実施された。午後からの2試合の後、夕刻から室内練習場横の駐車スペースで行われた激励会は、OB会から磯部会長や出雲顧問を、来賓として生徒寮・クレオテックの三島氏をお招きして行われた。

短時間であったが、空腹の胃袋に用意された食事を詰め込み、1～2年の各代表が、3年生は全員が夏の大会への抱負を述べた。いよいよ1週間後が開会式である。

7月4日

大会前にOGが後輩の激励に



大学硬式野球部に籍を置く田口智子OG（4回生）と奥村なつみOG（2回生）がグラウンドを訪れてくれた。目的は勿論後輩の激励だが、今やクラブで唯一の存在として頑張っている3年生の中村沙也加マネの様子は気になるようで、かつて自分たちが過ごした女子マネルームに入り、自分たちの現役時代を懐かしんでいた。田口OGは現在就職活動を展開中だが、関西学生野球連盟で放送委員として活躍する奥村OGは、この夏も放送で太陽が丘球場で美声を響かせる予定。早速、立宇治の試合予定を見て、16日の担当に立候補してくれたとのことで、16日の1回戦は奥村OGの放送で試合をすることになりそうだ。

7月1日

3年ぶり!! ノーシードの抽選会



選手権京都大会の抽選会が行われ、伊崎主将がチームを代表して挑んだ。過去2年間はシード校としてクジを引いたが、今回はノーシード。しかも予備抽選で69番を引き、シード校を除けば最後から8番目の本抽選。対戦相手はほぼ埋め尽くされており、1回戦の相手は南八幡と決まった。勝てば府内で唯一練習試合を頻繁に行うシード桃山との対戦となる。短期決戦のトーナメントでは何が起こるかかわからない。先を読んで試合をするより、目の前の対戦相手を全力で倒すことに専念することが大切である。

なお先だっで行われた秋季大会抽選は、土曜講座のない三好優太が新チームを代表してクジを引いた。

2006年6月度のトピックス

6月24日

最も暑い時間帯、ご苦労様でした

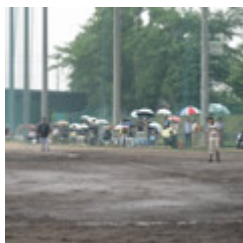


天気予報は曇りだったが、カンカン照りとなった土曜日。いよいよ選手権京都大会を控え、毎年恒例?になっているお母さん方の「千羽鶴」作りがグラウンドの片隅で行われた。マネージャがエアコンの効いた部屋を準備していたが、「大人数だから」と室内練習場横にテントを張り、正午から午後2時過ぎまで最も暑い時間帯での作業となった。

千羽鶴はもうかなり前から選手権京都大会を前にした激励会で、保護者会から選手に贈呈されており、夏の大会ではベンチ後方に飾られる。そして近年は敗退したチームが「自分たちの分まで頑張る」と勝利校に手渡すようになってきている。

6月17日

これぐらいでは中止になりません



天気予報は「曇り」だったが、午後からポツリポツリと降り始めた雨は止むことなく、しばらくすると本降りに。徳島から鳴門工業を迎えての練習試合は、第1試合後半からグラウンドが光り始め、終盤には水が浮き始めた。勿論、大会でもいったん試合が始まればなかなか中止にはならず、このような状況でも試合は続行される。

投手陣は相手エースも含めて両チーム6名が登板したが、雨を全く気にせずマイペースで投げる投手、必要以上に雨を意識しているように見える投手など様々であった。このような状況でも勝ちも負けも負け。常に自分の力が発揮できる「逞しさ」も必要である。

6月14日

ディフェンスの精度を上げる



「まずは良い守りで自らのリズムを作り、攻撃に転じる野球」はもう10年近く立命館宇治が目指してきたスタイルである。例年この時期はディフェンスの精度をさらに上げるために、練習時間の大半をさいて様々な場面を想定してノックなどが行われる。特に今年は攻撃力に例年のような「軸」がなく、得点力も大きく劣るだけにディフェンスはまさにチームの生命線。

しかし気持ちばかりが焦るのか、単純な暴投や中継ミスが目立つ。この日はノックを中断してメンバーのみのボール回しを行い、暗くなってからはマシンから勢いよく飛び

出してくるボールを素早く受けて投げるカットマンの練習が繰り返された。

6月10日

残り約10試合!! 夏へのサバイバル



選手権京都大会開幕まで間もなく1ヶ月。残りの練習試合数も順調にこなせて残り10試合程度となった。その結果でベンチ入りメンバーが決まる。春季大会までは上級生中心の起用が目立ったが、GW以降は下級生も加わり8勝3敗2分と良いリズムが生まれつつある。しかしメンバー争いは「学年」ではなく「個人」。なるべく多くに最後のチャンスが与えられるよう6月の日曜の試合は全てアウェイとし、ホームグラウンドではBチーム戦が組まれていた。昨年も土壇場で大幅な入れ替えがあり、まだまだ勝負が決したわけではない。

6月10日

恒例!! シーズンオフの大学生が合流



春季リーグを終えた大学生が続々とグラウンドへシーズンの報告と自らの調整に訪れている。中間テスト最終日の一昨日から全体練習を再開した高校だが、まずその日に3回生の黒田巖域OBが挨拶に訪れ、軽く高校生の度肝を抜くピッチングを披露。この日は2回生の藤原大輔OB・稲川佳祐OBと佐藤拓哉OB・屋敷悠OBの4名が自らの調整と後輩の指導に訪れてくれた。藤原OBはこの春季リーグ戦では全試合ベンチ入りし、リーグ戦後に合宿所入りが認められた。またリーグ戦後の新人戦では今春卒業した屋敷OBを始め、中田晶OB・上内辰哉OBも出場したとの報告を受けており、現役選手にとって大きな励みとなっている。

硬式野球部 TOP PAGEへ

2006年5月度のトピックス

5月27日

Pair Rits (保護者会) 春季総会実施



変則Wヘッダーの合間を縫って、硬式野球部保護者会 (Pair Rits) の春季総会が、グラウンド横の生徒寮食堂で行われた。新入生の保護者にとっては初めての会となり、50家庭の中46家庭が参加する盛況ぶりであった。

保護者会長挨拶や石川部長挨拶の後、保護者会会計の中間報告や選手権大会壮行会について話し合わせ、「保護者会連絡網」「応援申し合わせ事項」なども確認された。ほとんどの保護者が終了後にグラウンドに戻り、引き続き練習試合を観戦した。

5月26日

諦めるな!! 球際に強くなれ



春季大会が終了し、ノックを受けるメンバーには下級生が混ざってくるようになった。技術的には上級生と遜色ないように見えるが、ただの軽い球さばきだけでなく、一発勝負の夏は何としてでもボールに食らいつく「泥臭さ」も必要になってくる。そういえば後一步、いや後半歩のところでボールを逃す場面が散見される。

この日の貝塚監督はシートノックを途中で中断し、捕手も含めた内野手全員を3塁ベース上に集めて、2塁ベース目がけてスタートを切らせ、ぎりぎり届くか届かないかのところに緩いゴロを転がし始めた。瞬く間にユニフォームはご覧の通りとなった。

5月16日

初の韋駄天杯!! リレーは貫禄の連覇



本日は体育祭。午前中は小雨模様で全競技が終了できるかどうか心配されたが、部員50名も各競技に元気に参加した。体育系クラブ員にとっての注目は何と言っても「クラブ対抗リレー」。硬式野球部は2年前のセンバツ学年が途中まで首位を走りながら、バトンミスで4位に甘んじた以外は、それ以前3年連続、それ以降昨年も優勝しているだけに、首位は譲れないところ。第1走・伊崎(3年)～第2走・大西(3年)～第3走・松本(2年)～アンカー・宮本(3年)のメンバーは最大のライバル・アメフトをかわして見事優勝し、「伝統」を守った。また伊崎主将は校内最速を決定する韋駄天杯にも優勝。こちらは初の快挙であった。(韋駄天杯3位は松本)

5月13日

新入生のメディカルチェック



新入生が練習に合流して1ヶ月が過ぎた。中学までとは違う圧倒的に濃い質と多い量の練習に身体も悲鳴を上げる寸前かもしれない。今日は雨天で練習試合が中止になったこともあり、今年度からチームに帯同している吉田コンディショニングコーチが、新入生のメディカルチェックを行った。

全員に問診票を書かせた後、ひとりずつ面談。過去の故障歴などを聞き出しながら、アドバイスを送った。今は「痛ければすぐに休む」という傾向にあり、すぐに「医者から止められたので」と口にする。しかし「やりながら治す」という方法もあることも学んで欲しい。

[硬式野球部](#) [TOP PAGE](#) [^](#)

平成18年度

春季京都府高等学校野球大会 速報

1次戦

4月23日(日) 決勝 対平安 (平安亀岡G)

痛い!! 4回平安にビッグイニング

●立命館宇治 000 000 0=0
○平 安 000 720 X=9X (7回コールドゲーム)

ム)

【立】山田-小西【平】福島-平野

▼本塁打 妻鳥(平) ▼2塁打 松本(平)



立ち上がりから3回まで走者を許しながらも後続を断ち、秋の優勝校・平安に対し、互角の展開に持ち込むかに見えた立命館宇治であったが、4回に1死2塁から連続四死球で満塁とされた後、4安打を集中され、一気に7点を失った。

立命館宇治は初回に1番・松本の右前打、犠打の後、3番・松島の左前打で1死1.3塁の絶好の先制機を作ったが、主軸が断たれた。エース福島に対し、6安打を放ったが、走者の飛び出しや牽制死で完封された。

秋よりは球威、変化球の切れ共に成長をうかがわせる山田だったが、7四球4死球はいただけない。またこのような展開になってもリリーフに上げられる投手陣がないことも夏に向けての課題となった。

立命館宇治の公式戦コールド敗退は2年ぶり。夏は3年ぶりのノーシードとなった。

※写真は初回にチャンスを広げる左前打を放った松島駿介(2年)

4月16日(日) 2回戦 対堀川 (立命館宇治三室戸G)

序盤から一気に攻勢!! 5回コールド

○立命館宇治 302 32=10
●堀 川 000 00=0 (5回コールドゲーム)

【立】山田-小西【堀】辻中-山内

▼3塁打 松本、松島(立)

▼2塁打 松本、伊崎、松島(立)

立命館宇治は初回、先頭打者の松本が右中間を破る3塁打で出塁すると、3番・松島が右翼線に2塁打を放って鮮やかに先制。相手失策と6番・末永のタイムリーで計3点を入れた。その後も攻撃の手を緩めず、3~5回



にはそれぞれ1単打と1長打、四球などを巧みに絡めて大量得点をあげた。

先発・山田は5回で被安打2、奪三振6、四死球2と相手打線を封じ込めた。

ブロック決勝戦は23日、3季連続で秋の優勝校・平安の胸を借りる。

※写真はほぼ完璧な投球を披露した山田遼摩（2年）

1次戦メンバー

番号	守備	名前	学年	出身中学	投	打
1	投	山田 遼摩	2	高槻四 (大阪)	左	左
2	捕	小西 謙斗	2	蒲 生 (大阪)	右	両
3	一	大西 和宏	3	盾津東 (大阪)	右	右
4	二	宮本 剛司	3	青山台 (大阪)	右	左
5	三	末永 大将	2	東海大仰星 (大阪)	右	右
6	遊	山崎 遙海	2	淀 川 (大阪)	右	右
7	左	松本 陸	2	旭 丘	右	右
8	中	松島 駿介	2	鎌 田 (三重)	左	左
9	右	伊崎 亮介	3	三 郷 (奈良)	右	左
10	ㇿ	両角 聖人	3	東 部 (長野)	右	右
11	投	三好 優太	2	東海大仰星 (大阪)	右	右
12	捕	吉田 雄樹	3	高 穂 (滋賀)	右	左
13	内	吉田 啓悟	2	木 幡	右	左
14	外	井上 彬	2	洛 南	右	右
15	内	奈数 光	2	湖 東 (滋賀)	右	右
16	外	上田 航平	2	九 条	左	左
17	内	山口 雄三	2	皇子山 (滋賀)	右	左
18	ㇿ	稲元 裕大	3	山崎東 (兵庫)	右	右

み。夏に向けて徹底的に鍛える部員にとっては、恐怖のGWとなりそうである。

4月16日

早くも新入生主体で練習試合実現



春季大会が行われた16日。第2試合が終了して、通常練習が始まるかと思いきや、急遽第2試合を終えたばかりの桃山との練習試合が実現した。普段から懇意にしている桃山だからこそこの試合で、好意に甘えてこちらは入学したばかりの1年生中心にメンバーを組ませてもらった。上級生投手陣に故障者が多いため、GWあたりから投手を中心に1年生を徐々に試していく方針を固めている貝塚監督だが、思わぬ形で早期実現した。まだ一度も打撃練習もしていない1年生だが、外野は2年生の力を借りたが、バッテリーを含め内野は全て1年生だけでメンバー構成された。

4月12日

吉田先生がコンディショニングコーチに

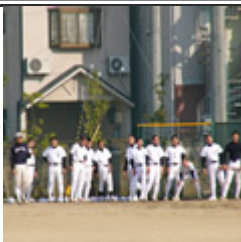


年末にもお世話になった長野県諏訪市のファイナルトレーナーズの吉田先生が、この度正式に本格的にチームのコンディショニング担当として、スタッフに加わることになった。トレーニングメニューやけが人の診断治療、リハビリに力強いメンバーとなる。本拠地が長野県のため、常にチーム帯同とはならないが、1ヶ月に一度2~3泊は携わってもらおう。

この日、全部員には石川部長から紹介された。今まで1~2度は指導を受けてきた上級生だが、伊崎主将から「宜しくお願いします」と元気よく挨拶がなされた。

4月7日

新入生20名が練習に初参加



6日に入学式を終えた1年生20名が練習に初参加した。この日初めて名乗りを上げ、見学した3名を含めて近年では最多の入部となった。例年3月25日より参加させていたが、今年度は入寮希望生徒が多くいたため、スタートを入学式後とした。合格発表後には20名をひとつの教室に集め、「春休みの間に相当走り込んでおくように」と伝えたが、初日の練習では「これ以上軽くては練習メニューにならない」と貝塚監督が主務に指示したメニューも息も絶え絶えであった。例年、春季大会でデビューする新入生が何名かいるが「今年はスタートも遅れたし、上級生の意地にも期

2006年4月度のトピックス

平成18年度 春季京都府高等学校野球大会 速報 06.4.23更新終了

4月29日

自分たちに都合の良い野球をするな!!



GW初日の午前中に守備練習。すでに平安戦に負けた翌々日からノックのメンバーも新入生を加えて組み直されている。一部でコンバートも試されているため、内野陣は3年がひとりで残りは全て1~2年生。一人がミスをして監督から叱責されると、連鎖反応を起こしたかのように次々と何でもないゴロをはじく。すぐさま集合がかり「自分たちの調子の良いときだけ、乗っているときだけ力が発揮できる都合の良い野球をするな!!どんな状況でプレッシャーが入っても冷静にプレーできるようにならなさいいつまでたっても2~3回戦レベルのチームだ」と叱咤された。

4月29日

ピッチングと同じぐらい大切です!!



陸上用ハードルを二つ並べ、橋を渡すように2本の板が並べられている。この真下に両角主務がボールを置き、10メートル向こうからグラブを抱えてダッシュしてきた選手が、低い姿勢で捕球体勢に入る...。毎年投手希望の新入生はたくさんいるが、まずは球数制限を設けながらピッチングをさせ、同時にフィールディング練習もさせる。今年初めて導入された練習方法ではないが、守備練習でのバント処理の拙さを見かねた貝塚監督が、1~2年生投手陣にこの練習を命じた。投手は投げ終わった後は内野手に変身しなければならないのである。

4月26日

新入生を加え、チームに活性化!!



春季大会に敗れた翌日を休養日とし、火曜日からは新入生を加えたメンバーで紅白戦が行われた。「もう上級生だけで試合するのは終わり。新入生を加えて夏に向けてチーム活性化を図る」と貝塚監督は伊崎主将に宣言して、サバイバルが始まった。当然、春季大会のメンバーでありながら、紅白戦メンバーに洩れた者もあり、「奮起するか腐っているかは遠くから見ていてもわかる」(貝塚監督)。
29日から始まる9連休の大型GWも練習試合は3日間の

待したい。安易に新入生を公式戦では使わない方針」（貝塚監督）である。

4月5日

『つれづれ"野球な"旅日記』



京都市山科区在住の女性から一冊の本が届けられた。そういえば1年前に「現在、自分が今まで見て回ってきた高校野球の練習で感じたことを執筆し、出版準備中で、その本の中で立命館宇治高校の練習風景の写真を使わせていただきたい」というお手紙をいただいたのを思い出した。1年前に卒業した土橋章弘OBと吉岡健博OBの写真であり、その当時ふたりにこういう依頼が来ているがOKかと聞いたことがあった、

今回、その本が完成したとのことで、見れば土橋OBは表紙を飾っている。本のタイトルは『つれづれ"野球な"旅日記』。新楓社が出版し、1100円+税。写真の撮影者は『ベースボール倶楽部』のたっちゃんである。

4月3日

8日間連続の14試合を乗り切り....



8日間連続の16試合が組まれた3月26日から4月2日が終わった。例年は天候不順のため何日かは雨天中止となるが、今回は2試合が中止になったのみで、14試合が行われた。26名の新2～3年生がいても、故障者を除けば20名にも満たないメンバーで、投手陣も鈴木・五舛出（以上新3年）三好・山田（以上新2年）の4名を中心に何とかやりくりできた。「まだまだ結論を出す段階ではない」（貝塚監督）だが、この連戦を乗り切ったメンバーが春季大会の中心となることは確実であり、16日からの活躍を期待したい。

硬式野球部 TOP PAGE^

2006年3月度のトピックス

3月25日

これぞまさに「スライディングパンツ」



ベースランニング練習の時に部員が履いている様々な色のトレーニングパンツ。実はこれは貝塚監督の発案で、中学時代の体操着や古くなって不要になったトレーニングパンツを各自持参させ、スライディング練習の際に履かせているものである。「怪我の防止」と「ユニフォームが破れるのを避ける」という二重の効果がある。もうタンスの奥にしまってあって、いつ捨ててもおかしくないというものなら、最後に役立ってもらおうというわけだ。勿論ユニフォームの下にはスライディングパンツをはいているが、これもまた立派な「スライディングパンツ」である。

3月21日

球春到来!! 練習試合が本格化



今シーズン初の練習試合（12日・神戸国際大附）こそ雨天順延となったが、以降の練習試合は順調に進んでいる。この時期独特の雨も予想され、18日から21日まで4日間8連戦が組まれたが、何とか試合はできた。けが人を除けば試合に出られるメンバーに限りがあり、大きなコンバートも試されている。

埼玉の強豪・浦和学院に勝つなど「新チームスタート時と比べて、格段の進歩」（貝塚監督）であるが、26日から8日間16連戦も組まれている。今年は新入生参加の予定もなく、現有戦力でこの闘いに挑む。

3月11日

3年生11名が巣立ち 現役部員が見送り



2005年度卒業証書授与式が行われ、3年生部員15名が元気よくキャンパスを巣立った。式典では第76回選抜高等学校野球大会出場と04年度秋季近畿地区高等学校野球大会ベスト8の功績が称えられ、優秀スポーツ賞（団体）が硬式野球部に与えられた。学校長は式辞の中で今年の卒業生の数々の思い出を挙げる中で、「2年生の春に22年ぶりに甲子園に出場した硬式野球部」と語った。

式典が終わりに近づいた11時過ぎには現役部員が3年生を見送るために集合し、他の運動部員と共に花道を作って、3年生を見送った。この日のために用意されたスタッフからの卒部記念品とともに全部員で寄せ書きした色紙も手渡された。



今年の卒業生の中で、中田晶、上内辰哉。屋敷悠、佐藤拓哉、清川和也の5名が大学体育会硬式野球部への入部の予定で、すでに2月の伊予三島キャンプにも参加している。

3月8日

チーム代表で救急救命講座に参加



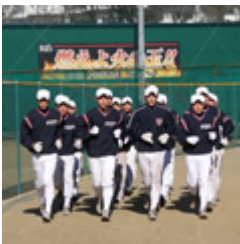
この日は朝からキャンパスの多目的ホールで「救急救命講座」が運動系クラブ員や教職員対象に実施され、クラブを代表して稲元副務と石川部長が参加した。人工呼吸や心臓マッサージを始め、校内4カ所と生徒寮1カ所に設置される予定のAEDの使い方についてみっちり受講した。

午前3時間と午後からの3時間半は理論と実技が満載で、今までグラウンドでも救急車を呼ばなければならない時もあり、これからは状況によっては生徒寮のAEDを使ってできるだけだけのことをしなければならないことも考えられ、ともに真剣に取り組んだ。

※写真は人工呼吸法を学ぶ稲元副務

3月8日

2学年揃って、半月ぶりに練習再開



学年末テストに集中するため、2月19日を最後に全体練習を休止していたが、ようやく再開された。テスト終了日が2年生の球技大会だったため、2学年が揃うのはこの日から。

練習試合は今週末の日曜日から組まれており、春休みの26日からは連日連戦となる。また例年25日には練習に参加させる新入生も今年は入学式後まで参加させない方針で、この連戦を現有勢力のみで乗り切る覚悟である。この2学年をいかにすれば最大の力が発揮できるのか、コンバートも含めて、実戦練習に熱が帯びてくる。

3月4日

今年も手作りに挑戦!! 3年卒業記念品



3月11日に卒業式を迎える3年生15名の卒業記念品が現在、制作最終段階に入っている。今年もまた部長の手作り。まずは『ベースボール倶楽部』のたっちゃんや高校野球写真愛好家の森田巨彦氏、または部長がHP用に撮影した写真CD数枚の千数百枚にも及ぶ中から、各部員のベストショットを数枚ずつ抽出する。それも同じような構図が重ならないよう「攻」「守」「走」とバランス良く選び、これをスーパーフォト用紙を使ってプリントアウトする。そして今年はガラスのフレームにレイアウトした。

間もなく15人分のフレームが完成するが、卒業式当日、現役部員から手渡される予定である。

[硬式野球部 TOP PAGEへ](#)

2006年2月度のトピックス

2月26日

大学キャンプ帰りの3年生が三室戸へ



学年末テスト翌日より公欠で大学硬式野球部の練習に参加していた3年生が、24日までの伊予三島でのキャンプを終えて、三室戸グラウンドを訪れた。上内前主将は引越し作業のため顔を出せなかったが、屋敷・中田・清川・佐藤の4名は日焼けした顔にたくましさをうかがわせた。この日は後輩は学年末テストで練習しておらず、石川部長からこの間のTOEFL到達課題を受け取った。少々お疲れ気味で、石川部長からキャンプでの感想を求められ、「もうほとんど雑用追われる毎日でした」と照れ笑いを浮かべながら答えていた。

2月19日

AMで終了し、芸術祭のお手伝いへ



本日は学年末テストまでの最後の練習。終日たっぴりと練習したいところだが、本日は「芸術祭」が学校で行われており、全校生徒は登校日と設定されている。加えて芸術科から最後の後片づけの依頼を受け協力することになっており、練習は午前中で終了した。

練習再開は学年末テスト最終日の3月7日からだが、12日からは練習試合が組まれており、この日はシート打撃形式の練習が行われた。寒さとけが人続出のため、例年ほど「追い込む冬」を過ごせなかったが、「春」は間もなくやってくる。

2月18日

確率は2万分の一。春季大会抽選



1～2年前に春～夏（ともに準々決勝）～秋（3位決定戦）と3季連続で立命館と公式戦で対戦することがあったが、これは両校に上位進出する実力があったからこそその組み合わせであった。昨夏の2回戦と秋季大会初戦で2季連続平安と対戦した立命館宇治は、伊崎主将が春季大会抽選会に挑んだが、三度魅入られたように2戦目で平安と対戦の可能性があるクジをひいた。周囲からは「また平安と立宇治や。ホントよう当たりよるなあ」の声が…。3季連続で2回戦までのカードで同一チームの対戦が実現する今回の確率は2万分の一強という「強運」さだ。

2月17日

スタッフルームを畳敷きにリフォーム



グラウンド移転以降もBKCで使用していた応接セットをそのまま使用していたスタッフルームだが、この度知り合いから「畳」を譲り受け、「和仕様」にリフォームした。普段はそうでもないが、変則ダブルで試合をすると、スタッフルームも2チームのスタッフと審判が同時に食事をとることとなり、混雑することもある。

畳敷きにする方が、広々と使えるかもということで、知り合いから畳を譲り受けるのを機会に思い切ってリフォームされた。

2月16日

今や紅一点!! SAYAKA作です



現在たった一人で女子マネージャーとして頑張る2年生・中村沙也加作のバレンタインの贈り物。2月14日が実カテストだったため、本日グラウンドに訪れた石川部長と貝塚監督に手渡された。

女子マネの第1期生は現在大学硬式野球部でもマネージャーを続ける田口OGが高校入学と同時であったから、2月14日にスタッフに「義理」が果たされて今年で8年目となる。マネージャーが多いときならまだしも、今年はひとりで男子部員分も含めて手作りをしたのかと思いをはせ、一口ずつ味わっていただきたい。

2月9日

やはり強い味方です!! 室内で打撃練習



暦の上で立春が過ぎたとはいえ、今日は日中に雪が舞う時間帯もあり、日が沈んで風が吹くと、体感温度はかなり厳しいものがある。今月末の学年末テスト休み～来月12日から始まる練習試合の日程を考えると、そろそろ実践的な動きも必要になってくる。しかし屋外ではいくら身体を温めても、すぐに冷えてしまう。

そんな時に強い味方となってくれるのが去年3月に完成した室内練習場である。梅雨の時期に威力を発揮したが、この時期でも室内に入れば充分打撃練習も可能だ。フリー打撃は3カ所同時に行え、主務のストップウォッチと掛け声で機敏に動いた。

2月4日

製氷器をクラブハウスへ移設



三室戸野球場で練習するようになってから、「必需品」とリースしていた大型製氷器が部員が更衣するクラブハウスに移設された。配水管の関係で、これまではスタッフルームに置かれていたが、やはり使うのは部員たち。特に夏期には大きな味方となる。

貝塚監督から「工事に少々費用がかかりますが、やはり配水管を伸ばして部室に置いてやる方が…」と提案があり。今週末に壁に穴を開けて配水管を伸ばす工事をしてもらったもの。これで氷をとるのにいちいちスタッフルームを開け「失礼します!!氷をとらせて頂きます」と挨拶しなくてすむ。

[硬式野球部 TOP PAGEへ](#)

2006年1月度のトピックス

1月28日

寒風を切り、最短距離を走る!!



まだまだ寒い日が続き、「球春到来」の予感すらないが、練習では来るべき春に備えて、徐々に実戦の動きが加えられている。たとえばランニングもトレーニングを目的としたものから、向上した脚力をベースランニングで生かすことも始まった。

この日のベースランニングでは塁ベースごとにテーマが決められており、選手はお互いに打球を想定する掛け声と共にスタートする。3塁ベースではコーンが並べられ、最短コースを走ることをイメージした。貝塚監督からは「蹴り足を左と拘るな!! スピードを落とすな!!」など各塁に具体的指示が飛んでいた。

1月25日

お風呂マットでストレッチ!!



ふたり一組で行う柔軟体操で、どこにでもある光景だが、敷物に使われているのは「お風呂場用マット」。10数年前の旧キャンパス第5校舎の1階に柔道場があり、それが解体される際に柔道畳の下に敷かれていたウレタンマットを硬式野球部が譲り受け、ストレッチや補強運動の時の敷物として重宝してきた。しかしついに貝塚監督から「大切に使ってきましたが、ついに限界かと...」と申し出があったため、石川部長が陸上部がストレッチやマッサージの敷物として使用しているバスマットにヒントを得て、近所の量販店で大量に購入した。1枚498円なりい。

1月20日

優秀選手の表彰!! 高安純太前主務



平成17年度京都府高野連臨時委員総会が実施され、総会に先だつて05年度優秀選手の表彰が行われた。立命館宇治は春季大会準優勝の実績から1名推薦することが決まっており、昨年7月の3年生ミーティングで高安純太主務が選ばれていた。

他チームの表彰者はチームの主将・主力といったケースで、高安主務の賞状盾には主務としてチームをまとめ上げた手腕を称える文言が刻まれていた。表彰式後の報道陣の質問には「僕個人が表彰されたというより、チーム全体が表彰され、たまたまその代表して受け取ったという感じです」と答えていた。

1月8日

三室戸に、歴代3主将がそろい踏み!!



寒風の三室戸グラウンドに大学硬式野球部で活躍する4人の先輩達が姿を見せてくれた。大学硬式野球部で新主将に任命された西川喬将先輩（現3回生）日岡拓也先輩（現2回生）藤原大輔先輩・稲川佳祐先輩（現1回生）である。頑張る先輩たちの姿は現役部員への大きな励みになる。

もうひとり「グラウンドに勉強に来ました」と訪れたOBは曾束和明先輩で、90年度卒。高校卒業後、社会人軟式野球の日本一に輝き続ける大阪市信用金庫で投手陣の一角を担い、昨年からはコーチ兼任を務める。曾束先輩の目にも「やはり大学生4名は本当に野球が好きで、自分たちのためにトレーニングしているのが目の輝きからうかがえますね」と映ったようだ。

1月5日

吉例行事で新春の初練習スタート



例年より2日間長い年末年始休みが終わり、新春初日の練習が吉例行事で始まった。

まずは全部員で宇治神社に参拝【写真上左】。宮司から「健康な心と体があって初めて野球が出来る。どうか身体を大切にこの1年頑張って下さい」とのお言葉をいただいた。

グラウンドに戻った部員は15分間のグラウンド清掃の後、宇治神社からの持ち帰った御神酒を各ポジションにまき【写真上中】、練習を開始した。練習冒頭では貝塚監督から「大きな目標を立てて闇雲に頑張るのではなく、日々出来ることを精一杯やりきるとい目標が大切」と挨拶があった【写真上右】。

この日はPairRitsの方から「集まれる保護者だけで」と鏡開きが行われ、練習後にお餅入りの豚汁が振る舞われた【写真下左中】。また「近くですから」と古和田隆介OBも新年の挨拶に訪れてくれた【写真下右】。

